

第4回 はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会議事概要

日 時：平成26年6月4日（水）13:30～15:30

場 所：高知市たかじょう庁舎 6階 大会議室

出席者：はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会委員

委員長	青木	章泰
副委員長	広末	幸彦
副委員長	岡内	啓明
委員	木村	祐二
委員	澤村	朝子
委員	安藤	一臣
委員	大西	みちる
委員代理	森岡	憲夫
委員	松田	誠祐
委員	杉浦	俊彦

高知市

商工観光部長	中澤	慎二	
商工観光部理事	門田	良章	
商工振興課副参事	吉岡	謙二	外

高知県

総務部長	小谷	敦	
総務部副部長	北村	強	
政策企画課企画監	松本	忠史	外

- 1 開会
 - 2 高知県総務部長、高知市商工観光部長あいさつ
 - 3 議事
 - (1) 東西軸エリア活性化プランの取り組み状況について
 - 【資料4】市商工振興課説明
 - 【資料5】県政策企画課説明
- ◆意見交換

【委員】

説明を聞くと平成 27 年度～28 年度に向けて東西軸エリアも大きく変わろうとしているのが目の当たりになった。新資料館や新図書館もやっと落札できて、商店街も東西軸エリアもずいぶん変わるという期待を大きく持っている。ただ、東西軸の西側に力が集中していると思う。はりまや橋周辺には、よさこい情報交流館のような一年中訪れる施設ができたものの、東の方の魅力がもう少し足りないということを実感として持っている。せっかくい施設が西の方にたくさんできて、人が移動する仕組みがないと本当の意味での東西軸の活性化ができないと思っている。いい具合の分配というか、特に、はりまや橋周辺の更なるブラッシュアップを是非検討していくべきではないかと考えている。

【委員】

高知県に赴任して1年ほどになり、帯屋町をほぼ毎日拝見している。資料4のP8にあるフラフも非常にいいと思うし、商店街の皆さんのポスターも地元の方の写真を使用しており、好感が持てる。いいものがあるので、後はどうやって、呼び込んでいくのが課題だと思っている。プランを改めて見ると、駐車場については、手を打たれているので、私もこれ以上のアイデアはないが、皆さんが車で移動するので下りてもらうような方法があるといいと思っている。

【委員】

このプランでお城の魅力は、一つのポイントだと思う。高知城公園の管理はできていると思うが、木曜市が開かれる道路から見ると、楠の両サイドが下がってしまい、お城の景観がふさがっている。是非、剪定をして欲しい。

<事務局>

道路沿いの街路樹の剪定は、高知市の都市整備公社に委託しており、予算の裏付けがない状況である。ご意見については、来年度の予算で検討していきたい。

【委員】

去年、一昨年と外国船のクルーズ客船の入港が多くある。資料4のP3にもあるが、サンプリンセス号が入って来て、高知県の観光が好評であったと聞いている。高知市はお城やアーケードのショッピングモールがあるし、また、抹茶のおもてなしが好評であったと聞いている。今後の外国客船の寄港も予想されるので、今以上に観光客が気持ちよく観光できるように対応することが必要だと考えているが、具体的に手立てを検討しているものがあれば教えて欲しい。

<事務局>

今日は、観光担当者がいないが、クルーズ客船の今後の動きについては、高知県には今年、クルーズ客船が 11 隻来る予定であるが、外国客船は 1 隻しかない。これは、今年船会社の都合で来ないだけであり、来年度、再来年度に向けて増加するのは、ほぼ間違いないと思う。この要因は、船会社の方に聞いたところでは、今まで、カリブ海、エーゲ海を中心に回っていた大きな客船が、太平洋側で寄港地を探しているためであり、特に日本については、クルーズ客船が大きくて、橋をくぐれないために、関門海峡や瀬戸内がダメということである。例えば、韓国のチェジュ島に来た客船が、太平洋側に回って横浜に向かう中継点として、高知港が注目を集めている。来訪者の受けが良いのは、日本を感じさせるような、お城の存在や演出が可能かどうか、また、まちを象徴するダウンタウンがあるかどうかであるが、高知市については、ほぼこの条件はクリアできていると聞いている。課題は、まち自体は素晴らしいので、もっと日本を感じさせるような演出ができないかという点、他には、Wi-Fi の整備やスムーズな入港手続き (CIQ) 等である。特に必要なのは、港で高知らしい商品を提供できるように素材のレベルを上げていくことが、大きな課題である。演出については、各団体に協力を頂いて刀でわらを切るとか、資料 4 の P3 にあるような抹茶の提供については評価が高いことから、もっと対応できるのではないかと考えており、観光コンベンションや商店街等と定期的な話をしている。また、商店街のショッピングにおける言葉の問題や、まちなかにマネーチェンジャーがないという課題もある。単に見て楽しむだけではなくてお金を落としてもらうために、ちょっとしたソフトな課題が出てくるので、その部分について、関係団体と協議を進めていければと考えている。

【委員】

このプランの策定にあたっては、様々な皆さんの意見を聞いて練り上げて作成し、策定後 3~4 年経過している。今回の報告を聞くと、本当にオール高知というか、県・市・商店街、商工会議所等と同じ方向を向いた協力体制ができて、ここまでの取り組みが出来ているのではないかとつくづく思った。私もあちこちの視察に行く機会があるが、中心市街地に対する行政機関の取り組みが他県にないぐらい一つになっていると実感している。この調子で、目標の平成 27 年度を迎えるわけだが、それ以降も同じような体制ですべての事項に取り組みれば、商店街もまだまだ十分可能性がある、自分も商売をしている商店街の理事長という立場から実感している。

ただ、ハード、ソフトは整いつつあるが、個店レベルは大変売上が厳しい。個店の自助努力しかないと思うが、人が来ても売上を上げるのは、難しい。商店街に人を呼ぶには、個店と魅力ある後継者とリーダーや核店舗がどう充実しているかが大事だと思う。核店舗は大丸さんしかないので、魅力ある個店の創出と核店舗の大丸さんの充実（商品力とテナントの充実）について商店街と一緒にしながら十分力を発揮して

いけないといけない。このエリアのプレイヤーとして商店街がこの調子でやっていけばいい結果がでるのではないかと思っている。

資料 5 の線表で散見される「検討中」の事業については、今まで一生懸命検討した経緯を踏まえて「検討中」となっているのであるから、無理なところは期間までにどうこうすることにこだわる必要はないのではないかと思っている。

公共交通が重要な局面を迎えているが、中心市街地と公共交通は切っても切れない運命共同体だと思っている。以前は、あったのだが、このエリアに、簡単なバスターミナルができないかと思っている。例えば、市役所の建て直しにあたり、前のロータリーにバスが何台かおけるスペースが確保できれば、市役所、県庁、大橋通りに歩いて数分の距離になると思うので、検討してもらえればと思っている。

【委員長】

東西軸エリア活性化プランにおいては、その機能として、交通の拠点という意味合いも大きいと考えている。そういう意味では、東西軸エリアと交通は切っても切り離せない。今一度、この機能に立ち返って考える必要があるかもしれない。具体的な提案も出たので、事務局は答えにくい部分もあると思うが、どう考えているのか。

<事務局 A>

公共交通は、まちづくり、東西軸、中心市街地等と一緒に考えていけないと思う。公共交通の再編については、10月1日の新会社設立に向かって検討を進めている。間に合うかどうかは分からないが、いろんな形で持続可能な公共交通を創出するために、県市等が検討していけないと考えている。

<事務局 B>

委員から新庁舎の建設の話が出たが、当初の予定より建設は若干遅れ、平成30年3月末に完成予定で4月に引っ越しをすると聞いている。今回、建設する庁舎自体は大きいものになる。理由は、現在周辺に散らばっている南別館やたかじょう西庁舎等を一つにすることと、また、この地域には、高さ制限があるので、5～6階までの建物しか建設できないことから敷地ギリギリになるのではないかと思っている。そういう意味では、ご提案して頂いたバスターミナル設置については、難しい部分もあると思うが、委員長の言うように、中心部は交通の拠点になると言われているので、対応については、県からの説明にあったように、公共交通について新しい体制もできるので、その中で検討していけないと思っている。

【委員】

ハード事業の整備は順調だと思う。今後、ソフト事業の方も詰めていければと思っ

ている。具体的には、イベントや個店の魅力向上があると思っている。今回の資料4のP11にあるようなフリーペーパーの「OBIBURA」、「OBIBURA MAP」や動画で各店舗を紹介し、個店の魅力を伝える「OBIBURA CHANNEL」で配信したCMについてお客さんから喜ばれて好評であったと感触を得ている。ただ、今後、店舗がなくなったり新しい店舗が出来たりする動きを更新することも必要なので、出来る限り対応できればいいと思う。

イベントについては、資料4のP23を見ると中央公園で、こんなにイベントをやっていることを改めて実感した。ふと思ったのだが、中央公園でのイベントの予定等を探しても見つからない場合がある。イベントの主催者が十分に宣伝していたら別だが、そうでない場合は分からない、中央公園で、今後何が行われるか一目で分かるようなものをつくれなにかと思う。特に、郊外の方や県外の方に、中央公園で魅力あるイベントやっていることをお知らせするきっかけ作りになるようなものを作成してみればどうか。

先日、関東に在住している高知出身の方でインターネットサイト「いこーよ」を立ち上げた方と話をする機会があった。現在、そのサイトに月150万人の閲覧者数があるらしいが、そのサイトでは、子どもと週末と一緒におでかけできるイベントを掲載している。そのサイトの掲載件数も多いが高知県は掲載件数も少なく、特に市内の施設のイベント情報はほとんどなかった。このサイトも利用しつつ、自分達で中央公園のイベントが分かるようなものを試してみればどうかと思う。各商店街のイベントについても、検討をして欲しい。

イベントについては、許可関係の規制をスムーズにして欲しいと前々から思っている。警察や市の道路管理課と話を詰めないといけなと思うが、商店街でイベントをする際に、よさこいや日曜市等の街路を使うベーシックなイベントを見習って、新規イベントをやる時に手続きがスムーズに行くようにして欲しい。私は、おびさんロード商店街で「おびさん星空マルシェ」というイベントを行っており、その際、許可申請をしているが、煩雑な部分もあるので、スムーズにいくように商店街や第三者に権限を持たせてもらえないかと思っている。そうすれば、例えば、毎週せり出し高いプロジェクトで100円商店街を行う等の社会実験的な取り組みができればいいと思っている。

<事務局>

所管課がないので、あまり適当なことが言えないが、イベントに応じているんな関係機関があるので、一概に一箇所で解決するとはまでは言えないが、行政としても「できるだけ使いやすく」という思いは一緒だと思っている。何らかの手だてが打てるようであれば打たなければと思っている。答えはこの場では出せないが、課題は認識しているので、部内でも話をしていきたいと考えている。

【委員】

資料4のP5において紹介されているが、国のにぎわい事業(地域商店街活性化事業)で大橋通りにある「わくわくワークるんだ商店街」が内閣総理大臣賞を頂いた。次回についても気合いをいれて、8月のよさこいアンコールに併せて300万円の予算でネジを巻いているので、その際には関係各位にご協力よろしくお願ひしたい。

高知商工会議所の青年部設立30周年の記念として中央公園にアンパンマン像を置こうとしている。当初公園の遊具の近くに置こうとしたが、市役所に難しいと言われた。アンパンマン像というものは、玄関先に置いてもしょうがない、遊具で遊ぶ子どもの側においてこそ理想的だと思うので、残念という印象を持った。結局、てんこすの近くに置けらしいが、何とかならないか。

<事務局>

関係者との調整の上、中央公園の遊具の付近に置くことも含めて検討していきたい。

【委員】

今日の説明を聞いていると、東西軸エリア全体のハードの整備については進展しておりすばらしいと考えている。事務局の説明の最終の部分で、「中心商店街の更なる主体的な取り組みが重要だ。」という説明を受けて、委員からも更に充実していきたいという話があったが、もう少し突っ込んで発言をさせていただきたい。

商店街について、商店街全体の商品群を視野に入れた、ワンストップサービスという見地から消費者にサービスが十分提供できているか検証していけばどうか。例えば、郊外の大型ショッピングセンターへ行くとワンストップショッピングが出来ているが、その機能が中心商店街にあるかどうかという検証をして欲しい。検証にあたっては、どういうものを揃えるかという戦略的な絵図が前もって必要だと思う。その場合には、既存のお店にとらわれず、少し理想も付け加えて、もし空き店舗や業種等がでたらそれを補填していくということで考えていけばどうか。

日曜市も同様ではないか。日曜市の魅力は高知の一次産品や伝統的な産品を揃えていることで、高知らしいなるほどと思う産品が揃っていたが、今は、空きコマが増えている。それを補完するためには、日曜市全体の絵図をもっと手前に考えておくことが、今から非常に大事な部分だと思っている。この問題は、この委員会では個別詳細に議論できる問題ではなくて、商店街を中心とする皆さん方がまさに絵を描いて作っていく話だと思っている。

公共交通については、県内で最大の企業である県庁、その次に大きな企業である市役所の職員が公共交通を利用する、つまり、マイカー通勤を止めるという状況づくりを進めて行くことが大事だと思う。そうすると中心商店街で飲み食いするので、これ

が一石二鳥、三鳥の効果が生じる。是非、まちづくりを市民と一体となって進めていくことで考えて頂ければどうかと考えている。

【委員長】

商店街のワンストップサービス機能についてビジョンを掲げて取り組むこと。公共交通について県・市を上げて具体的に利用するという意見が出た。例えば、市内の乗り入れは禁止し、乗り継ぎをするのか、パークアンドライドという視点で取り組むのか、今までと違う発想でないと、間違いなく乗客の多くが減少していく。公共交通機関をどのような形で守り観光客に繋げていくのは、その点について大変重要な点だとは思ふ。具体的な提案が出たので、なかなか答えにくいがどう考えているのか。

<事務局 A>

県では、「こうち520運動」という特定の日をあらかじめ決めて、その日は公共交通機関を使うという取り組みを進めている。県民、市民の皆さんにより利用して頂くというためには、使い勝手のいい公共交通を目指すことが大事であるし、また、観光との連携が必要だと思っている。今後、新会社を準備する議論の中でよりよいサービスについて検討していきたいと思っている。

<事務局 B>

公共交通機関については、高知市でも同じような取り組みを行っている。

日曜市については、先ほど説明したように本年度検討会を設置して活性化について構想を検討していく予定である。過去、平成19年度に検討したが、十分対応できなかったもので、今回は、きっちりスケジュールをつくってやっていく予定である。これまでは、新しい出店者は農業の生産者しか入れていなかった。これは市が規制していたためであるが、他の産品を売っていた方がお店を止めた後の受け皿がなかったことでバリエーションが少なくなったと思う。実際、日曜市でどんなものを売れば市民の市と認知してもらえるのか、また、観光客にとっても自分のまちにあったらいいなど、和んで頂ける市になるのかなと思っている。どんな商品を街路市で売っていけばいいかということについても、今年の検討会でテーマの一つに据えてやって行こうと思っている。また、出店者についてもどんな方に出演して頂くかということも検討していかないといけないと思っている。今年一年の検討が終わったら、来年こういった場で報告できるように、ご意見を承っていきたい。

【委員長】

日曜市については、もう少しだけ、デザインを考えていけばどうか。売る高さが、ちょっと低いという県外の方の意見も聞いている。これまで、日曜市を売ってきた方

の、売り方のスタイルや目線の高さなどもあるので、これまでの経緯を全面的に否定する話ではないが、うまく現状を生かせるようなデザインや人間工学的な要素の知見を有している知恵のある方の意見を踏まえて検討をした方がいいのではないかと。高知でも著名なデザイナーがいるので、その方の意見も踏まえて、是非検討して欲しい。

【委員】

公共交通は、電車の停留所について、特に南北の路線については、商店街にそのまま行けるところに電停がない。例えば、雨の時とか、濡れずに商店街に入れるようなところに電停がないと思う。バスの停留所についても同様だと思う。これは、商店街が当事者なので、雨の降ったときに濡れずに商店街へ行ける乗降場所を商店街の方が知恵を出して提案していけばどうか。そうしないと、もしかしたらせつかく、見直せるチャンスを逃すのではないかと考えている。

Wi-Fiの話が出たが、東京の秋葉原でWi-Fiが2箇所以上でつながる場所を探すということを試すと30分かかるといってテレビ番組を見た。Wi-Fiスポットは、簡単に見つけることができないようである。東西軸エリアで、Wi-Fiが機能するという事になれば、少なくともインバウンドとしては東京に負けていないということになる。誰でもが簡単に入れるWi-Fiという視点を忘れず取り組みを進めて欲しいと思っている。また、商店街で語学の使える社員は確保するのは難しいが、スマートフォンなどのアプリで上手く使えば、十カ国語に変換できるアプリもあるので、接客も可能である。商店街の皆さんが有効にうまく利用しないといけないと思う。商店街の活性化についても、ある部分は行政でやれば良いが最終部分はどうしてもプレイヤーである商店街がやらないといけない。Wi-Fiについては機能として作り上げてそれを生かす努力は当事者である商店街の皆さんが進めて行けばいいと思っている。

<事務局>

Wi-Fiの話はインバウンドを進める上でなくてはならないものだと思っている。公共交通については、商店街の皆様の意見も聞いてよりよいものにしていきたいと思っている。

【委員】

商店街以外の団体が、中心街でイベントをやって頂いて感謝している。毎日、店先に立っているが、商店街の通行量は、少しずつ増えているという感想を持っている。商売に繋がるかどうか別だが、通行量が増えるというのはうれしい事だと思っている。また、サンプリンセス号の時は、今年の寄港は、日曜日だったので、金融機関が休みでお客さまが両替で大変だった。

【委員】

日曜日は、マネーチェンジを行う金融機関が休みであったこともあり、商店街では、マネーショップ1軒と郵便局しか対応できない状況でお客さんが右往左往していた。

【委員】

確かに、マネーチェンジが一番問題だったと思っている。しかし、こちらもマネーチェンジがどこで対応できるか全然分からなかった。事前に来る日が日曜日ということがわかっていたので、もう少し事前に打ち合わせをしていればよかったと思っている。Wi-Fiの件も、困っている方が大勢いた。

クレジットカードに対応できる店がなかったのも反省点である。全ての店舗で対応するにはやや現実的でない面もあるので、ソフト面で対応できるようにしたい。女性部の活動は、経営者が自ら周辺を巻き込んで取り組みを行えたことで商店街の良いところが出たのではないかと考えている。今後もこのような形でやっていきたい。

【委員長】

資料5に事業の評価がなされているが、全体的な見地に立つと、果たして出来ているだろうかという取り組みが目につく。例えば、「9-2 子育てにやさしい環境づくり」として来店者の子ども連れにやさしい施設の増設及び情報発信に取り組むという項目があるが、てんこすにあることは承知しているが、全体的に十分に分かりやすい情報提供が出来ているかという点についてはどうだろうかと思っている。例えば、郊外的大型ショッピングセンターと比較してどう考えるか。利用者の視点からもう一度見ていく必要があると思う。

また、「土佐の偉人」という項目があるが、これを有機的に観光にどう繋げていくかという点は重要だと思う。自分は、寺田寅彦の銅像を建てる会に参加しているが、寺田寅彦など、観光資源をもう一度洗い直してみてもどうか。例えば、寺田寅彦記念館をどのような形で観光に結びつけるのか等で考えて見ればどうか。このような視点で、洗い直す必要があるのではないかと。

まんが文化についても、駅前やホテルにアンパンマン像が置いてあるだけということについてどう考えるかが、必要だと思う。まんが文化といいながら、これらの取り組みをどう有機的に考えていくか、観光と来訪者の視点で考えていけないといけない。まんがを売りにするのであれば、観光客がインパクトを受け心に残る風景というくらいやっていけないといけない。確かに取り組みはやっているとは思いますが、それは供給者目線ではないか。一つ一つは出来ているが、全体最適になっているかという視点で、足りない部分を皆が補っていく視点は必要。また、このプランは、項目別に掲載しているので、例えば、ITの視点から足りない部分はないか、海外からの観光客の視点で足りない部分はないか等の異なった視点で考えると、まだまだやるべきことがあるので、この視点から

の検証についても今一度立ち返って検討をお願いしたい。

【委員】

郊外の大型ショッピングセンターにはベンチがありお年寄りが座っている。イベントをやるときにベンチがあればと思う。

【委員】

この取り組み事例の中に、当時は重視されてなかった視点として防災の視点がこのプランには入っていない。高知市に住んでいる人や商店街の人はどこに逃げたらいいか頭に入っているが、よそからきた方や、外国からきた方がどこに逃げたらいいか全くわかっていないと思っている。防災という意味での視点を検討してはどうか。

【委員長】

特に高知は近い将来、南海トラフ地震が起こると言われている。釧路では、大通りのいたるところに避難路等を表示している。この取り組みで、利用者に安心感を与えるのは、極めて大事だと思う。

もう一度、事業の評価を異なった視点で行うことをお願いしたい。最後になるが、高知が元気になってほしいと願っているのは、皆一緒だと思う。全員が同じ気持ちで一つ一つ実現していけば、みんなの参加意識が高まって好循環が生まれる。一足飛びにはできないので、少しずつ実現できればと思う。

(2) 今後のスケジュールについて

<事務局>

本日いただいた意見を踏まえ、本年度も引き続き着実に取り組みを進めていきたい。

4. 閉会

(以上)